



Q：COPD（慢性閉塞性肺疾患）とはどのような病気でしょうか？

A：以前に「肺気腫」と呼ばれていた、肺胞が壊れて酸素の取り入れや二酸化炭素の排出が障害される病気と、「慢性気管支炎」と呼ばれていた、気管支・細気管支・肺胞の広い範囲に慢性の炎症が起こり、空気の出し入れが障害される病気を統一してCOPDと呼ぶようになりました。COPDは現在、全世界の死亡原因の第4位まで上昇し、日本でも今後さらに増加すると予想されています。

長期間にわたる喫煙や大気汚染物質の吸入が原因で、C

OPDの患者さんの95%に喫煙歴があると言われます。ニコチンやタールなどの有害物質を含むタバコの煙を吸い続けることで、気管支・細気管支・肺胞に慢性の炎症が生じ、さらに炎症は肺胞壁を広範囲に破壊していくのです。

主症状は慢性的な咳・痰・息切れで、進行すると体内の酸素不足が起こり、酸素吸入が



必要となることもあります。いったん発病すると途中で病気の進行を止めることはできません。予防としては、受動喫煙も含めて、たばこの煙を吸わないことが重要です。

（岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニッコー北口駅前ビル2F）

☎0555・2888・1801